

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	自己肯定感と思いやりのある子どもたちを育てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○連携担当者会議へ参加し情報を共有する。各パート会議の設定</li> <li>○合同授業研の開催と交流</li> <li>・12月6日のブロック研実施</li> <li>・夏休み合同研修会実施</li> <li>・各幼小中の研究授業に積極的に参加してもらう。(小学校研究授業 6回)</li> <li>○連携教員による取組み</li> <li>・小学校への授業参観と出前授業の実施</li> <li>・連携通信の発行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎29年度の取組みの継続</li> <li>○連携担当者会議へ参加し情報を共有する。各パート会議の活性化</li> <li>○合同授業研の開催と交流</li> <li>・連携カリキュラムの見直し</li> <li>・交換授業の推進</li> <li>○学校事務の共同作業</li> <li>○連携教員による取組み</li> <li>・小学校への授業参観と出前授業の実施</li> <li>・家庭学習の研究会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎30年度の取組みの継続</li> <li>○連携担当者会議で情報を共有する。</li> <li>・外国語教育会議の確立</li> <li>○合同授業研の開催と交流</li> <li>・連携カリキュラムの再確認</li> <li>・交換授業の推進と実践</li> <li>○連携教員による取組み</li> <li>・小学校への授業参観と出前授業の実施</li> <li>・家庭学習の保護者向け講演会の実施(保幼小中対象)</li> </ul>
確かな学力の育成	学習習慣の定着 学力向上に向けた取り組みの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館支援員や校内の図書委員会を活用するなどし、読書活動を促す取組みを充実する。</li> <li>・自分の考えや思いを言葉を使って書く力をつけるために、授業の中で自分の考えやふりかえりの時間を計画的に設定する。</li> <li>・教員の授業力向上を図るために、職員間の授業参観ができる期間を設定する。</li> <li>・家庭学習のてびきや学習規律について教職員間で検討し、共通理解を図る。</li> <li>・自主学習の定着を図るために、自主学習の行い方を交流し、全校で取り組める方法を探る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館支援員や校内の図書委員会を活用するなどし、読書活動を促す取組みをさらに充実する。</li> <li>・ふりかえりの時間に書かれた内容を授業につなげるなど、ふりかえりの時間の充実と活用を進める。</li> <li>・教員の授業力向上を図るために、職員間の授業参観ができる期間を設定し、相互に意見交換できるようにする。</li> <li>・家庭学習のてびきや学習規律について、全教職員の共通認識のもとで指導を行う。</li> <li>・自主学習を全校的(4~6年)に推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度までの取組みを継続するとともに、子どもたちの実態を踏まえた取組みを推進していく。</li> </ul>
豊かな人間性を育む	規範意識の向上 違いを認め、自己を大切に 自分の進路を切り拓く力の育成 人権感覚の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権学習や道徳の学習での、多様な出会いや生き方学習を通して、自他のいのちの大切さに気づき、考える力を育てる</li> <li>・自分の進路について考える力をつける。</li> <li>全 道徳</li> <li>低→学校探検、自分の大切ないのち</li> <li>中→車椅子体験、2分の1成人式</li> <li>高→キャンプ、北摂つばさ高校との交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権学習や道徳の学習での、多様な出会いや生き方学習を通して、自他のいのちの大切さについて気づき、考えるとともにそれを実現するための意欲、態度を育てる。</li> <li>・中学校や今後の人生について目標や具体的な姿について考える力をつける。</li> <li>全学年 道徳</li> <li>低→学校探検、自分の大切ないのち</li> <li>中→車椅子体験、2分の1成人式</li> <li>高→キャンプ、北摂つばさ高校との交流 内容の深化充実をはかる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権学習や道徳の学習での、多様な出会いや生き方学習を通して、自他のいのちの大切さについて気づき、考える。さらに、意欲、態度を育て、具体的に一人ひとりが行動できる力を育てる。</li> <li>・中学校や今後の人生について目標や具体的な姿を考え、それを実現できる力がつくよう努める。</li> <li>全学年 道徳</li> <li>低→学校探検、自分の大切ないのち</li> <li>中→車椅子体験、2分の1成人式</li> <li>高→キャンプ、北摂つばさ高校との交流 内容の一層の深化充実をはかる</li> </ul>
健康・体力の増進	立と体育授業の活性化 基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茨木っ子運動Ⅱの継続的利用。</li> <li>・体育カリキュラムの作成、実施。実態を把握して調整する。調整後、来年度へ。</li> <li>・授業力向上のため校内研修の実施。</li> <li>・体育備品の整備。・体育行事の実施。</li> <li>・食育を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茨木っ子運動Ⅱの継続的利用。</li> <li>・作成した体育カリキュラムの実施。実態を把握して調整。</li> <li>・授業力向上のため校内研修の実施。</li> <li>・体育備品の整備。・体育行事の実施。</li> <li>・食育を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茨木っ子運動Ⅱの継続的利用。</li> <li>・実態を把握して作成してきた体育カリキュラムの固定。</li> <li>・授業力向上のため校内研修の実施。</li> <li>・体育備品の整備。・体育行事の実施。</li> <li>・食育を推進する。</li> </ul>
支援教育の充実				

## 2

# 今年度の結果と取組みについて

## (1) 全国学力・学習状況調査

### ○●国語●○

#### 国語A

##### (領域ごと)

- ① 話すこと・聞くこと  
概ね良好な結果であった。
- ② 書くこと  
概ね良好な結果であった。
- ③ 読むこと  
概ね良好な結果であった。
- ④ 言語事項  
課題が残る結果であった。

##### (問題形式)

- ① 選択式  
やや課題が残る結果であった。
- ② 短答式  
課題が残る結果であった。
- ③ 記述式  
出題なし

##### (無解答率)

やや課題が残る結果であった。

##### (その他)

文章の中における主語と述語の関係などに注意して、文を正しく書くことに課題がある。

漢字の書き取り問題は著しく低く、漢字を覚え切れていない様子である。

選択問題にもかかわらず、無解答率が高い。

#### 国語B

##### (領域ごと)

- ① 話すこと・聞くこと  
概ね良好な結果であった。
- ② 書くこと  
やや課題が残る結果であった。
- ③ 読むこと  
課題が残る結果であった。
- ④ 言語事項  
—

##### (問題形式)

- ① 選択式  
概ね良好な結果であった。
- ② 短答式  
出題なし
- ③ 記述式  
やや課題が残る結果であった。

##### (無解答率)

やや課題が残る結果であった。

##### (その他)

理由を説明する問題への正答率が、著しく低い。

目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読み問題に課題がある

どの形式においても、無解答率が平均値より高く、特に記述式については、無解答率が高くなっている。

### 分析

どの問題形式でも無解答率が高いので、あきらめずに考えきる力が必要であると思われる。

漢字の書き取り問題は著しく低く、漢字を覚え切れていない様子なので、日頃から漢字を使う機会を増やす必要がある。

問題形式が、日頃なれない問題については、極端に正答率が下がるので、いろいろな形式の問題に触れる機会をつくりたい。

B 問題においては、大阪府平均を概ね上回っており、よい結果だった。A 問題の課題であった漢字の書き取り問題を克服させ、全国平均値に近づけたい。

# 〇●算数●〇

## 算数A

(領域ごと)

### ①数と計算

やや課題が残る結果であった

### ②量と測定

やや課題が残る結果であった

### ③図形

課題が残る結果であった

### ④数量関係

やや課題が残る結果であった

(問題形式)

### ①選択式

やや課題が残る結果であった

### ②短答式

概ね良好な結果であった

### ③記述式

出題なし

(無解答率)

やや課題が残る結果であった。

(その他)

最も正答率が高かった設問は「量と測定」問題であった。一方で示された事柄が両方当てはまるグラフを選ぶでは、無解答率が高く、グラフを正しく読み取ることへの課題が見られた。

## 算数B

(領域ごと)

### ①数と計算

やや課題が残る結果であった

### ②量と測定

やや課題が残る結果であった

### ③図形

課題が残る結果であった

### ④数量関係

やや課題が残る結果であった

(問題形式)

### ①選択式

やや課題が残る結果であった

### ②短答式

課題が残る結果であった

### ③記述式

やや課題が残る結果であった

(無解答率)

やや課題が残る結果であった。

(その他)

最も正答率が高かった設問は「数と計算」問題であった。一方でメモをもとにグラフのどこに着目して書かれているかを書く設問では、無解答率が高く、自分の考えをまとめ、記述することへの課題が見られた。

## 分析

### 1. 全体的な傾向

- ・評価の観点で見ると、数量や図形についての正答率が低い。学習用具や教具を使用した学習を多く取り入れ、具体的なイメージ化ができるように経験を積む必要がある。
- ・評価の観点で見ると、数学的な考え方で正答率がかなり低い結果であった。
- ・一般的に無解答率が高い。特に、数学的な考え方で無解答率が高い。その理由としては、問題形式が記述式であったためだと考えられる。問題を読む力・説明する力・文章力等の力の育成が必要である。

### 2. 全国との比較

- ・算数A・算数Bともに正答率が、全国平均と比較すると低い結果であった。また、小数の含まれる割り算での正答率がかなり低いなど基礎的な計算力を定着させる必要がある。そこから、数学的な考え方への育成を図るため、読解力・説明力・思考力などの応用的な力を育成する必要がある。

# 理科

## (領域ごと)

### ① 物質

概ね良好な結果であった

### ② エネルギー

概ね良好な結果であった

### ③ 生命

やや課題が残る結果であった

### ④ 地球

概ね良好な結果であった

## (問題形式)

### ① 選択式

概ね良好な結果であった

### ② 短答式

課題が残る結果であった

### ③ 記述式

概ね良好な結果であった

## (無解答率)

概ね良好な結果であった

## (その他)

## 分析

- ・問題形式としては、選択式の問題については無解答率が低いが、短答式の問題については無解答率が高く、短い言葉で解答することに課題が見られる。
- ・最も正答率が高かった問題から、より妥当な考えをつくりだすために、複数の異なる方法の実験結果を分析して考察することについては、相当数の児童ができています。
- ・全体的に、全国や大阪府と比べて、正答率は低い。
- ・流れる水のはたらきに関する問題については、全国や大阪府と比べて正答率が高い。生活圏内に川があり、理科や社会の時間でも学習するため、正答率が上がったと考えられる。

## ●経年比較●○

### 全体的な傾向についての分析

- ・国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」は、一定の定着がみられるが、文章や資料を読み取り、活用する力に課題がみられる。
- ・算数の図形領域の正答率が低く、既習事項を活用して問題を解くための基礎学力の向上が必要である。
- ・平均的な学力はここ数年両科ともに横ばい状態にあるが、二極化が顕著にみられるようになってきた。
- ・発達的な課題の有無を明らかにし、それをもとに教材研究等を進める必要性を感じる。

### 学力高位層と学力低位層、EP(エンパワー)層についての分析

- ・国語の低位層の割合が減少傾向にあるが、全国平均との隔たりは基礎問題については大きい。
- ・算数Aでは低位層の割合が増え、算数Bでは横這い状態であるが、どちらも二極化が続いている。

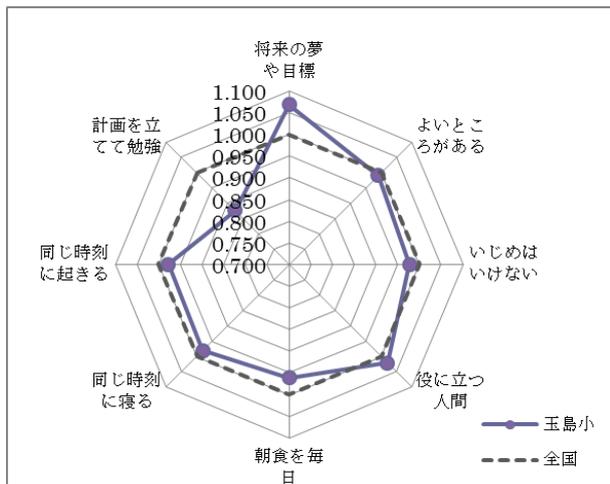
## ○●取組み●○

### 学力向上に関する取組み

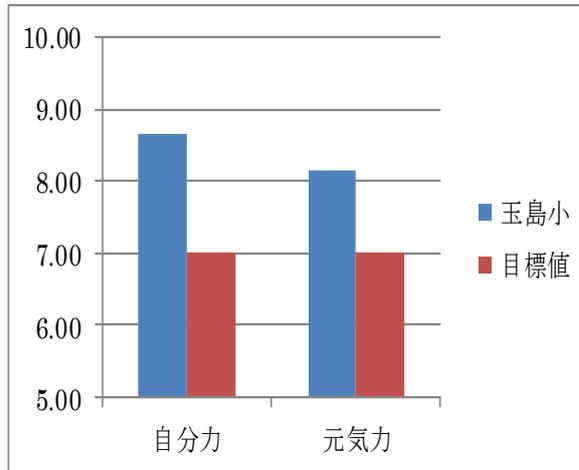
1. 基礎的な学力の定着に向けて
  - ① 朝のモジュール学習の充実
    - ・低学年を中心に、算数だけでなく漢字やローマ字の定着を図るために、計画的、系統的に学習活動を進める。
  - ② 読書活動の充実
    - ・朝の読書タイムや年2回の読書週間をさらに充実させる。
    - ・図書ボランティアによる読み聞かせや図書資料の充実を図る。
  - ③ 学習室の開放
    - ・休み時間などに学習室を開放し、宿題支援や学習支援を行う。
2. 学習指導の充実
  - ① 「話し合い」「ふり返り」の時間を設定し、主体的・対話的で深い学びに向けた授業づくりを進める。
  - ② 自分の考えを言葉や図、絵を使って書く場面を設定し、書く力をつける授業づくりを進める。
  - ③ 研究授業や研修、教員間での授業参観を行い、教職員の授業力、資質向上を図る。
3. 自主学習への取組み
  - ① 学習内容の定着を図るため、宿題以外に自主学習の取組み方法を学校、学年で共通理解し、自主学習の取組みを進める。
4. 学習規律の定着
  - ① 家庭での学習方法や持ち物などについて「生活・家庭学習のてびき」を作成し、生活筆箱の中身をそろえる発信する。
  - ② 「宿題チェック週間」を毎学期実施し、実施後には子どものふりかえりを全校で紹介したり、結果を学校だよりなどに掲載したりする。
  - ③ 全クラスに「話し方・聞き方」の掲示をし、全校で共通指導を進める。
  - ④ チャイム着席を呼びかけ、授業時間の保障に努める。
5. 保幼小中の連携
  - ① 連携会議の充実を図る。
  - ② 合同授業研修や研修会を行い、交流を図る。
  - ③ 出前授業を行う。
  - ④ 給食、プールなどで交流を図る。

# ○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が大幅に変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は8項目、目標値との比較(棒グラフ)は、3項目とも実施した『自分力』と『元気力』のみとなっています。

## 分析

### 1. ゆめ力

「将来の夢や目標を持っていますか」の項目については肯定的な回答が多い。この気持ちを活かすために、世界や日本の動きや変化について、正しく理解したり、広い知識を持つたりすることが自分の目指す将来の夢に近づくのではないかと考える。授業の中でも、世の中の動きなどに興味をもって、様々なことを学んでいきたい、と思えるようなカリキュラム作りを進めていきたい。

### 2. 自分力

「よいところがある」、「いじめはいけない」の項目について、平均値は全国平均並みではあるが、「2」、「3」と中間寄りの回答をしている児童の割合が全国平均より高い。このことから、言い切る自信、自己肯定感などが十分に持てていないのではないかと考える。その裏返しとして、「役に立つ人間になりたい」の項目では、全国平均を上回っているのではないかと考える。このことから、活動の中で子ども達を関わらせ、子ども同士の相互理解を深めていけるようにしたい。

### 3. 学び力

「自分で計画を立てて勉強している」の項目では、どちらかという当てはまる、どちらかといえば当てはまらないと答えた児童がほとんどであった。

それらの児童が自信を持って「計画を立てて勉強ができる」と言えるよう、手立てを考え児童に提示していく。

### 4. 元気力

「寝る」「起きる」「朝食」とも、「毎日」の児童の割合が全国平均より明らかに低い。このことから、十分元気な状態で学校生活を送っていない児童が一定の割合いると考えられる。啓発はもちろんのこと、そうできない背景をしっかりとらえ、家庭へ個別支援、そして行政への支援の要請をしていく必要がある。

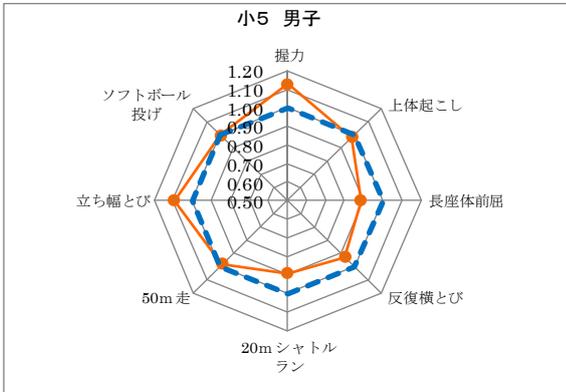
## 取組み

- ・子どもの実態を踏まえつつ、自他を大切にできる「豊かな人権感覚」を身につける取組みや、前向きに自らの生き方を考え、社会的、職業的自立に向けて必要な力を育てるキャリア教育をさらに推進する。
- ・学校全体として毎年取り組んでいる「キラキラの木」等の取組みをベースに、普段からの教師の肯定的な言葉かけを今後も意識していく。また、いじめにつながるような言動については、絶対に許さないという態度で、適正に指導していく。また、「総合的な学習」の時間等を活用し、キャリア教育を進めていく中で、子どもの将来への展望を持たせていく。
- ・一人ひとりの学力の底上げをめざし、継続してペア・グループ学習など、授業の中で子ども同士のつながりを大切に、協力しあう活動を推進していく。「生活・家庭学習のてびき」による保護者への啓発も行う。また、自分で計画を立てて勉強できる児童が増えるよう、自主学習を各学年の実態に応じ実践し、子どものがんばりを掲示するなどし意欲を高められるようにする。
- ・定期的に行われる「ほけんだより」、保健の授業などで食育を進め、朝食を食べることの大切さ、規則正しい生活の重要性を伝えていく。

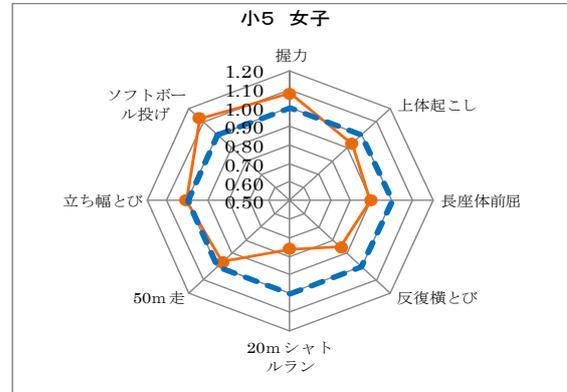
## (2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

### ○●体力●○

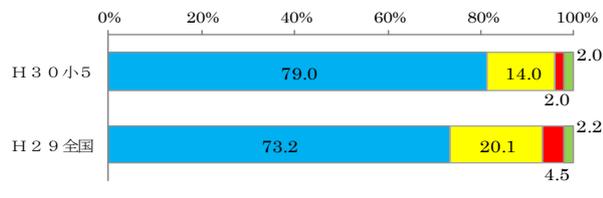
男子 (小5)



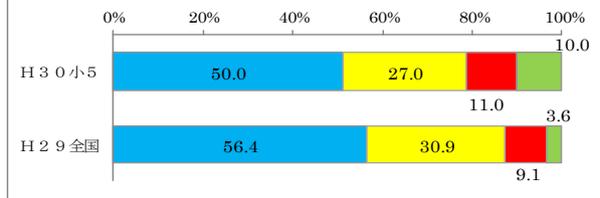
女子 (小5)



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



■好き ■やや好き ■ややきらい ■きらい

#### 分析

- ・男女ともに握力は全国平均を大きく上回っている。
- ・男子は、立ち幅跳びは全国平均を上回っているが、長座 反復横とび 20mシャトルランは全国平均より下回る。
- ・女子は握力 ソフトボール投げ 立ち幅とび以外、全国平均を下回っている。
- ・男女ともに反復横とびの記録が低く、素早く動いたり、体を上手く動かしたりする力が弱い。20mシャトルランの記録も低いので持久力にも課題がある。
- ・長座体前屈も男女ともに全国平均以下である。普段の遊び方が影響しているのではないかと考えられる。

#### 取組み

- ・茨木っ子運動の継続的活用。体幹を鍛える。
- ・体育カリキュラムの作成と実施。1年生から6年生までの体育の授業を系統立てることで、6年間で体を動かす力をつけさせる。
- ・マラソン大会の実施。持久力をつけさせる。
- ・実技研修の実施。体育の授業力向上のために教職員で研修を行う。